

海外安全対策情報
(2024年7月～9月分)

在フィリピン日本国大使館

1 治安情勢

フィリピンにおいては引き続き強盗事件や刃物、銃器を使った殺人事件が多発している。銃や刃物の所持規制の緩さから、些細なもめ事でも生死にかかわる事態に発展する危険性があることを十分認識し、特に夜間は歓楽街や人通りの少ない裏通りの一人歩きを避ける、万一被害に遭った際は生命・身体を守ることを第一に考えて抵抗はしない、口論や争いを避け他人の恨みを買わないよう言動に注意するなど、慎重に行動する必要がある。

2 一般犯罪の傾向

(1) 依然として首都圏の観光地やショッピングモール等日本人が多く訪れる場所で声をかけられ、誘われるまま飲食を共にした結果、意識を失い、気がつくとホテルや路上に一人で放置され、金品が奪われるといった、いわゆる「睡眠薬強盗」が複数発生している。

睡眠薬強盗や窃盗の被害を防止するためには、親切そうに見えても知らない人について行かないこと及び初対面の人間から提供された飲食物には口をつけないことが重要である。犯人は老若男女いずれの場合もあるが複数でありターゲットは単独で行動する外国人を狙うことが多い。とりわけ日本人は狙われる対象となりやすいことを自覚するとともに常に金品や貴重品は分散して保管する必要がある。

(2) マニラ首都圏においては、邦人観光客が窃盗やスリ被害に遭う事案が頻発している。被害を防止するためには、日本人は狙われる対象となりやすいことを自覚して、自身の持ち物から注意をそらさないことが必要である。また、常に金品を分散しておくことも有効である。更に邦人や外国人がよく利用する飲食店内での窃盗、置き引きやスリが発生していることから、飲食店を決める際、出入口に警備員が配置されている飲食店を選ぶことも防犯の一助となる。

3 テロ・爆弾事件発生状況

邦人を被害者とする事件の発生は認められないが、安全対策には引き続き十分注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関する諸問題

当地においては、一般的に企業及び個人に対する恐喝、脅迫、誘拐等が生じるおそれがあること、過去に日系企業（社員）や関連企業（現地法人）に対する脅迫事件も報告されたこと等を踏まえ、進出日系企業関係者は、企業及び社員の安全に関

し注意する必要がある。 また海外送金の詐欺に注意する必要があり送金口座情報の再確認等、詐欺被害に遭わないための注意が必要である。

5 その他

フィリピン入国前に必要な eTravel 登録について、フィリピン入国管理局より、料金を徴収する詐欺サイトの注意喚起が発出されているので、eTravel を登録される際、登録サイトが正規のものか、もしくは信頼できる旅行代理店による登録代行サービスか、確認すること。

以上